

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年8月6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892100066		
法人名	医療法人 博仁会		
事業所名	小規模多機能ホームひたちなか	ユニット名	
所在地	〒312-0003 茨城県ひたちなか市足崎1474-7		
自己評価作成日	平成26年12月4日	評価結果 市町村受理日	平成27年9月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_021_kihon=true&JigyosyoCd=0892100066-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年2月10日	評価確定 決 済 日	平成27年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>施設内にリハビリ機能強化型デイサービスと認知症対応型デイサービスを併設し、PT・OTを配置している。小規模登録者にもリハビリを実施することでADLの向上を図っていると同時に小規模利用者のご家族と認知症デイ利用者のご家族合同でオレンジカフェといった交流会を2カ月に1度開催している。地域との取組として、自治会の賛助会員として地域の行事に積極的に参加している。最近では、地域の方々が週に4~5回程度好きな時間にボランティアに来て頂いている。地域包括支援センター主催の小地域ケア会議に参加している。それを機に日常生活圏域の事業所間交流の発起人となり、事業所間の連携を図っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は自治会に賛助会員として加入しており、地域の祭事には利用者と職員で参加し、事業所の祭事などにも地域住民を招待するなど、地域住民との交流が日常的に行われている。</p> <p>外出支援では、季節毎の花見や茨城空港、海浜公園、カラオケボックス、釣り堀など、利用者の希望する場所に出かけている。</p> <p>女子会や男子会を設け、利用者の希望を取り入れて家族等の了承のもと、居酒屋などにも出かけている。</p> <p>事業所はリハビリ機能強化型デイサービスや認知症対応型通所介護事業所と併設しているため、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士と連携を図りながら利用者を支援するとともに、医師に判断を仰ぎながら併設事業所のリハビリ機械を活用して利用者の自立支援を行っている。</p> <p>運営母体が病院のため、利用者の緊急時や重度化した場合にも、利用者や家族等の安心につながっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティング時に事業所の理念の確認を実施。また入口付近に掲示し職員間で共有している	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を居間の入り口に掲示するとともに、職員は名札ケースに携帯し、いつでも確認できるようにしている。 管理者は朝礼や職員会議で、理念にそったサービスが実施されているかを確認するとともに、全員で唱和し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	賛助会員に加入。地域の方々と乾燥芋づくりや三世代交流祭に参加。	事業所は自治会に賛助会員として加入し、職員は地域の祭りの準備や自治会主催の清掃活動に参加するなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 利用者は地域の交流センターで実施する「いきいき体操」に月2回参加したり、三世代祭りでの繭玉づくりや餅つき、地域の祭りでは買い物を楽しむなど、地域住民と交流している。 併設する同一法人事業所と合同で開催する「ふれあい祭り」では、近隣住民が準備段階から手伝いに来訪し、当日は多数の参加を得るなど、今では地域住民の行事にもなっている。 地元中学生の体験学習を受け入れたり、地元高校生が傾聴や清掃ボランティアに来訪するなど、利用者が子ども達とふれ合える機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	独自の新聞（広報誌）をつくり近所の方々に配布。茨城県作業療法士会と連携し9月20日に市民公開講座をワークプラザ勝田で開催し実際にご家族に登壇頂いた。オレンジカフェの開催	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意見として防災訓練の話が出ているがなかなか実行に移せなかったが、2月中に実施する段取りで進んでいる。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、自治会長、前自治会長、民生委員、地域住民、家族等の代表で2ヶ月に1回開催し、会議では事業所の運営状況や行事、利用者の生活状況などを報告している。 地域の委員より消防訓練に協力する提案や事業所主催の「ふれあい祭り」に音響設備を貸し出す提案があるなど、参加者全員が活発な意見交換を行っており、出された意見をサービスの質の向上に活かしている。 家族等には運営推進会議の開催毎に、来訪時や電話で参加を呼びかけ、毎回違う家族等が参加している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	独居の認知症利用者や虐待の疑いのあるケースにおいて、高齢福祉課の方々と連携を取りながらサービスの提供をしている。	管理者は市担当者が運営推進会議で来訪の際や郵送、電話で済むことでも市担当者を訪問し、利用者の状況や運営状況を報告している。 地域包括支援センター主催の「認知症サポーター養成講座」をヤクルトレディーを対象に、事業所内で2回実施している。 管理者は市担当者に、一人暮らしの利用者の成年後見人制度について相談をするなど、日頃から連絡を密に取って協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成するとともに随時確認している。玄関等は施錠せず、自由に事業所の敷地内の遊歩道を散歩している	身体拘束廃止マニュアルを作成し、職員は身体拘束排除に関する内部研修を受講して禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を理解している。 現在は身体拘束対象の利用者はいないが、やむを得ず身体拘束が必要になった時の同意書や経過観察記録、再検討記録等の書類を整備している。 玄関は夜間以外施錠をせず、利用者は自由に事業所の敷地内を散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢福祉課、地域包括支援センター、保健師の方々と連携をとっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に該当する利用者がおり地域包括支援センターの方と協力して司法書士等に相談している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に実施できている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に1度家族会（食事会）を実施し、職員とのコミュニケーションを図っている。また家族向けのアンケートを実施し反映している	利用者からは日々のふれ合いの中から、家族等からは電話連絡時などに話を聴くほか、連絡帳や月1回の居宅訪問の際に、運営に関する意見や要望を聴くように努めている。 年2回の食事会を兼ねた家族会開催時にアンケートを実施して、家族等が意見を出し易いよう配慮している。 家族等から「家族会の回数を増やして欲しい」や「送迎の際に事業所の名称入りの車両ではなく、何も書いてない車両で送迎して欲しい」との意見を受け、誰でも自由に利用でき、有料でケーキとコーヒーが楽しめる「オレンジカフェ」を3ヶ月に1回から2ヶ月に1回に増やしたり、名称なしの車両を2台購入するなど、家族等の意見を運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度のミーティング及び定期的な面談を実施している。	朝礼及び職員会議、勤務表作成時に職員の意見や要望、提案を出せる機会を設けるとともに、必要に応じて個人面談を実施している。 職員は事業所での物品が必要と感じた時には「物品購入ノート」に記載して車いすの不足を補ったり、家族等からの要望を管理者に伝えて意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度をもとに適切な評価を頂き、それをもとにした準職員から正職員への登用や時間給のUPがある		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画をたてチェックしている。外部研修に積極的に参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	日常生活圏域の事業所間交流の開催。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーを中心に介護・看護職員がその人に関わりよりよいケアを構築している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当然ながら家族の面談も行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをもとに利用者のニーズ及び家族面談を実施し、双方のニーズを満たすようサービス提供に努めている。が、施設にまかせっきりにならないよう、注意が必要		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員間で意思統一を図っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事会の場には家族、職員、利用者が一緒になりコミュニケーションをとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に希望を聞き、その希望を実現できる取組を実施している。たとえば行きたいところアンケートをとり、実施するなど	年間行事に利用者の馴染みの場所への外出を組み込んだり、利用者の希望にそって、100円均一の店や本屋、商店での買い物、墓参りなどに出かけている。 職員が同行できない場合には家族等に利用者の思いを伝え、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう配慮するとともに、送迎時にも出来る範囲で利用者の希望の道路を通り、馴染みの場所が見られるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	登録者の性格等に配慮し、座席や入浴時間等に気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が原因による契約終了者に対しても面会にいつている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	申し送りノートや業務日誌を活用し職員間の意思の統一を図るとともに、常に本人本位の意識付けをミーティングで伝えている	事業所の廊下に利用者の行きたい場所を記載できるアンケート用紙を掲示したり、利用者とのコミュニケーションを心がけ、思いや意向が言い表せるよう努めるとともに、新たに把握した利用者の情報は日誌に記載し職員で共有している。 カラオケが好きな利用者には、カラオケ機器の操作を利用者自身で行えるよう支援したり、カラオケボックスに月1回同行している。 思いや意向の把握が困難な利用者の場合は、家族等から話を聞いたり、表情やしぐさなどから思いを汲み取るように努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートをもとにサービスを展開し何かあれば経過支援記録に記入している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し、一目でわかるようにすることで意識の統一を図っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当別にし、セラピスト、看護師、介護職員、ケアマネ同席のカンファレンスを実施。	介護計画は担当職員や看護師、併設している事業所の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士で話し合い、支援経過記録を基に課題を把握し、利用者や家族等の希望を取り入れて作成している。 モニタリングは毎月、カンファレンスは3ヶ月に1回実施し、3ヶ月もしくは6ヶ月毎に介護計画を見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シート、業務日誌、申し送りノートを活用した意思の統一。PT, OT, STの助言をもとにミーティングを開催している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	回復期から退院した直後は宿泊をメインに利用し、在宅での生活に自身がついてきたら今度は通いを中心に利用。最終的にデイサービスへと移行するといった事例もある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要があれば主治医あてに手紙を書き指示を仰いでいる	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援し、受診の際は利用者のバイタルサインなどの情報を提供して家族等が付き添っている。受診結果は家族等から報告を受け、介護記録や申し送りノートに記載して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要があればサービス担当者会議を開き情報の共有を図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には定期的に面会に行き、コミュニケーションを図っている	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書上にターミナルケアの有無を記載し、家族に了承を頂いている	事業所は重要事項説明書で看取りを行わない事を明記している。 契約時に重度化や終末期に至った場合にはその時々状況に応じた支援方法を提案する事としており、利用者や家族等に説明して同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間教育計画を立てチェックしている	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	前年度も計画していたが計画倒れで終わっていた。今年度は実施できるよう計画を立案し、運営推進会議にて地域の皆さんの判断を仰ぎたい	夜間想定を含めた総合訓練を年2回消防署立ち合いのもと実施し、実施後は反省会を開いて実施状況と訓練で明らかになった課題を記録に残している。 災害に備えて厨房には常に三日分位の食材を備えてあり、ほかに水や米、サバイバルフーズ6缶を備蓄している。 懐中電灯等も備えているが、備蓄品リストを作成して管理するまでには至っていない。 災害時には、事業所に隣接する運営推進委員宅の、飲用水にも適している井戸水が使用できていることになっている。	災害時の備蓄品は、数量や賞味期限等を記載して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人としてプライバシーマークを取得し、個人情報の保護に努めている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 トイレ誘導の際は小さな声で声かけをし、入浴の際もプライバシーに配慮して、同性の職員が対応するなどの配慮をしているが、利用者の居室のドアが開いていると紙おむつが丸見えの居室もある。 個人情報に関する書類は保管室の鍵のかかる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。	紙おむつなどは、人格の尊重とプライバシーを配慮して、保管方法を工夫する事を期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	登録者に聞き取り調査を実施し、希望にかなえている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ミーティング、朝の引き継ぎ時、ご利用者の状態を把握している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品やマニキュア等気分転換を図っている			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士と連携を図りながらその人にあった食事を提供している。	献立は系列病院の栄養課で作成され、食事は調理師が作っている。 利用者の嫌いな食べ物は代替品で対応し、正月料理や雛祭り、クリスマス等の季節に合わせた行事食を提供している。 年間行事に回転ずしやファミリーレストラン等、利用者が希望する外食を計画するとともに、事業所内でピザやたこ焼き等を作って食べるなど、食事が楽しみとなるよう工夫している。 職員は利用者と一緒に食事を摂り、利用者に応じた支援をしながら楽しい食事となるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間シートを活用し、一目でわかるようにすることで意識の統一を図っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施できている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的に作業療法士が介入し、自力でトイレにいけるよう支援している	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らいながら声かけやトイレ誘導をしている。 併設する事業所の理学療法士や作業療法士による、失禁予防体操を取り入れて失禁予防を図るとともに、作業療法士からは介助法についてのアドバイスを受け、出来るだけトイレでの排泄を支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な運動及び水分摂取には特に注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	季節感を味わって頂くために、冬はゆず湯にしている。入浴を拒否される方には無理強いせず本人の気持ちを優先した介護を心掛けています。	通いの利用者は毎回入浴が可能となってるほか、泊りの利用者の入浴は週3回とし、体調不良などで入浴が出来ない場合には、清拭で対応している。 浴槽に手摺を設置したり、シャワーチェアを配置したりして利用者の安全に配慮しながら快適に入浴出来るよう支援し、柚子湯や菖蒲湯で季節感を出している。 入浴を拒む利用者には、タイミングを見計らいながら言葉かけを工夫し、家族等とも相談して無理のないように促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に食後は宿泊室や談話室を活用し、ゆったりテレビを見たり寝て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表をもとに基本看護師が管理している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性利用者だけの女子会、男性利用者だけの男子会等を実施。特に男子会では居酒屋に向き、家族から了承を得た方にはお酒を楽しむことで気分転換を図っている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別アンケートをとり、行きたいところに外出するといった支援をしている。例：100円均一、ラーメン屋、東京等	職員は利用者の希望を取り入れ、車いすの利用者も含めて季節毎の花見や海浜公園、茨城空港などに出かけたり、文化センターで開催する和太鼓の鑑賞やオカリナコンサート、カラオケボックス、釣り堀などに行き、利用者の気分転換や五感を刺激する機会となるように支援している。 利用者は職員と、天気の良い日には近くの公園やドライブに出かけたり、買い物や外食にも出かけるなど、外出の機会が多い。 職員が同行できない場所には、利用者の思いを家族等に伝え、利用者は希望の場所に家族等と外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事の際、自分で支払える方には実際に自分で払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所の電話を使用してもらっている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに掲示物を飾ることで気分を味わって頂いている。清掃に関しては毎日必ず実施している。	玄関や居間には観葉植物や季節の花、段飾りの雛人形、利用者と職員と一緒に制作した手作りの作品、外出時の写真などを飾り、季節感を出している。 事業所全体は清潔で、換気やエアコンで室温も一定に保たれており、居心地良く過ごせる空間となっている。 玄関はバリアフリーになっており、廊下は車いすでもすれ違える広さがあるほか、トイレも広く立ち上がりバーが設置されており、車いすの利用者も不便を感じないつくりとなっている。 ホールにはカラオケを設置し、利用者自身で操作をして楽しめるように支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の症状に合わせた座席にしている	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本来連泊は好ましくないが、宿泊が多い方には本人の使い慣れたものを自宅から持ってきてもらい使用している	泊りの部屋にはカーテンやエアコン、ベッド、寝具、整理箆箆、洗面台、ナースコールが備え付けている。 管理者は利用者や家族等に、使い慣れた物品や好みの物を持ち込むように促し、利用者は衣装ケースやテレビなどを持ち込んで居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理学療法士、作業療法士と連携をとりながら自分でできる事はできるだけ自分で行って頂いてる。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能ホームひたちなか

作成日 平成27年8月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の備蓄品の数量や賞味期限等を記載して管理していなかった	管理を徹底し、非常時に迅速に対応できる体制を構築する	チェックリストの作成	即時
2	36	紙おむつ等について人格の尊重とプライバシーを配慮した保管方法の検討が必要	個人の人格を尊重した保管方法の確立	専用の収納スペースを設ける事でプライバシーを確保する	1週間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。